



加藤 元の



と暮らして
みませんか

33

猫はどのように気持ちや感情を表しているのでしょうか。

それを知るには、とにかく猫をよく観察してみる事です。それも、できれば複数で飼ってあげることです。猫は、猫同士でも人間のように言葉を使って気持ちを伝えることはできません。

人は、言葉でコミュニケーションしていても、実際は、声や話し方、表情、しぐさ、態度など、言葉ではない部分が90%を占めているのです。猫は、言葉ではありませんが、実は表情、鳴き声や態度で気持ちや感情を表現しているのです。

特に、来たばかりの子猫は、親

猫のサイン

読み取れば気持ち通じる

や兄弟から離れて、寂しがってしまいます。猫のボディーランゲージとサインをよく読み取ってやることで、人と猫の間に気持ちが通じ、猫は安心するのです。

それでは、猫のサインを具体的にあげてみましょう。

ニャーニャーと甘えた声で鳴くときは、うれしいとき、甘えたいとき、ふれあってほしいときです。

耳を伏せ、低い声でうなるようなときは、怖がっているときや、怒ったときです。この時は、口角（口の両端）が大きく後退し、体中の毛が逆立ちます。

しっぽを高くしてやさしく鳴き、体をすり寄せてくるときは、食事の催促、またはごきげんなきです。

部屋の前で鳴くときは、その部屋に入りたい、またその部屋から出たいときです。

体全体をよくなめて、毛づくろいするときや、ゴロゴロとを鳴らすときは、体調が良くて、自分の良い証拠です。

人間の赤ちゃんの声に似た鳴き声のときはシーズン（発情）のときです。

猫のサインをしっかりと読み取ってやることで、猫とよいコミュニケーションをとることができ、それで、猫と人間双方の生活がより快適なものになります。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2004年11月21日掲載》